

令和2年度第1回高梁市総合教育会議 会議録

1. 招 集 令和2年12月18日 午後3時00分
2. 開 会 令和2年12月18日 午後3時00分
3. 閉 会 令和2年12月18日 午後4時05分
4. 会議の場所 高梁市図書館 4階多目的室
5. 出席、欠席した構成員の氏名

氏 名	出欠の別
近 藤 隆 則	出 席
小 田 幸 伸	出 席
藤 井 祥 生	出 席
吉 川 昭	出 席
川 上 は る 江	出 席
渡 邊 あ り さ	出 席

6. 会議に出席した者の職氏名

職 名	氏 名	備 考
政 策 監	前 野 洋 行	
健 康 福 祉 部 長	蛭 田 俊 幸	
教 育 次 長	竹 並 信 二	
参 与	田 村 啓 介	
企 画 政 策 課 長	渡 辺 丈 夫	
こ ど も 未 来 課 長	藤 井 聡 美	
教 育 総 務 課 長	横 山 英 樹	
学 校 教 育 課 長	片 岡 一 公	
社 会 教 育 課 長	上 森 智 子	
ス ポ ー ツ 振 興 課 長	藤 井 正 宣	
教 育 総 務 課 主 幹	村 上 靖 恵	

## 7. 協議題

### (1) 高梁市教育大綱について

## 8. 議事の概要

### 1 開会

### 2 あいさつ（市長）

教育大綱を定めて5年が経過し、内容の見直しを行う必要があることから、総合教育会議を招集させていただいた。コロナ禍の中で時代は大きく変わろうとしており、その変化にきちんと対応していかなければならない。後ほど事務局から説明させるが、そうした中で大綱の考え方も若干見直しさせていただいている。

現在、令和3年度を初年度とする次期総合計画を策定中であるが、著しい人口減少の中、いかに移住・定住に力点を置くかが重要となっている。教育は人づくりであり、そのまちの教育がどのようなものかということは、移住を検討する際の大きな視点となるとも言われており、高梁市で子どもの教育を受けさせたい、高梁市で学びながら暮らし続けたいと望んでいただけるようなまちづくりを進めていく必要があると思っている。移住・定住を中心とした人口減少対策を支える3本柱として「教育」「食」「医療」を掲げさせてもらっている。高梁市に暮らす人たちが豊かで潤いのある生活を送ることができるよう、また子どもたちの人間力を育てていくことができるよう、3本柱の一つである「教育」を誇れるものにしていかなければならない。

先日の財務大臣と文部科学大臣の大臣折衝で、来年度から段階的に小学校の35人学級が実施されることが決定した。ようやくといった感もあるし、できれば30人学級まで踏み込んでほしかったが、国としての方針が示された中で、高梁市としての次の対策も考えていかなければならない。財政状況が厳しい中ではあるが、人づくりである教育に対する経費を惜しむことはならないとの思いは持っている。さまざまな体験を通じて子どもたちの感性を引き出していければと思っているし、大人の皆さんにも図書館をはじめとする生涯学習の場、いつでも学べる場というものを提供していきたいと思っている。

教育大綱の改訂案について、ぜひ忌憚のないご意見をお聞かせいただきたい。

### 3 協議題

教育総務課長	別紙資料により「(1) 高梁市教育大綱について」を説明。
市長	事務局からの説明のとおり、基本目標については、現行教育大綱の「大志を抱き未来を拓く人づくり」を引き継ぎたいと考えている。基本方針については、現在の情勢も踏まえながら、学校教育、生涯学習・社会教育の2本柱に整理し内容の見直しを行っている。ご意見を伺いたい。
川上教育委員	改訂案に、文部科学省が大きく方向を示しているGIGAスクール構想を踏まえての「Society 5.0」、また「多文化共生」の文言が取り入れられているのは評価できる。国においても、GIGAスクールは文部科学省が予算措置し、多文化共生も法務省や文化庁が予算措置しプロジェクトを組んでいる。 高梁市総合計画・前期基本計画案に関する資料を確認すると、5項目の基本方針の中で教育大綱に大きく関わるのが基本方針4の「教育・文化・スポーツ・共生社会」の項目であると思うが、その政策の柱としては「(1)心身ともにたくま

教育次長	<p>しい子どもが育つ学校教育を進めます」「(2)生涯学習の機会を広げ文化・スポーツの振興を図ります」「(3)人権を大切にする共生のまちづくりを進めます」の3項目で構成されている。教育大綱の基本方針について、学校教育と生涯学習・社会教育の2本柱に整理し、全庁的に取り組む事項でもある共生社会に関しては、それぞれの柱の中に組み入れたということも理解はできる。しかし、具体的取り組みを考えていくと、人権尊重や多文化共生社会の実現に向けて教育が果たす役割は大きいと思われる。総合計画の3本柱を受けて、共生社会の項目を独立させた方が、総論から各論まで筋が通ったものとなると考えるがどうか。</p> <p>教育大綱の位置付けであるが、市の最上位計画である総合計画の教育分野の施策をより具体化するために、市長が教育委員会と協議し教育大綱を示すこととなっている。その後、教育委員会としては、教育行政における総合計画として教育振興基本計画を策定することとなる。</p>
川上教育委員	<p>現行の教育大綱の基本方針は、学校教育の2項目、生涯学習・社会教育の1項目の3本柱で構成されていたが、総合計画も踏まえて見直し、大きく学校教育、生涯学習・社会教育の2本柱として整理させていただいた。</p> <p>「人権を大切にする共生のまちづくりを進めます」の項目については、総合計画の策定会議においても、教育の果たす役割も大きいものの、産業・雇用、社会基盤、福祉等あらゆる分野に関わることであり、位置付けをどのようにするか議論を重ねた。最終的には、次期総合計画では基本方針4に位置付けることで決定したが、市全体で考えていかなければならない事項であることは確認している。</p> <p>現行の教育大綱では、「多文化共生」はもちろん「人権」という文言も出てこなかったが、今の時代に対応したものということで、生涯学習・社会教育の柱の中では、「誰もが楽しみ触れ合える生涯学習活動を推進します」という項目にも関わってくるが、「人権を大切にする共生のまちづくりを進めます」という総合計画の文言を用い、一つの項目として取り入れた。また学校教育の柱の中でも、「たくましく、心やさしい子どもを育てます」という項目がそれに該当する。</p> <p>具体的な取り組み等については、策定作業を進めている教育振興基本計画の中で示していくので、ご理解をいただきたい。</p>
市長	<p>通常、上位計画に3本の柱があるのであれば、下位計画にはそのまま3本の柱が下りてくると思う。学校教育、生涯学習・社会教育の2本柱に整理したということも理解はできるが、総合計画、教育大綱、教育振興基本計画の整合を図るといっても、教育分野における人権教育、多文化共生教育の取り組みもより明確になると思い意見した。3本の柱に整理することは難しいことか。</p> <p>総合計画の「人権を大切にする共生のまちづくりを進めます」の項目には、人権、多文化共生のほか、男女共同参画といった内容も含まれており、教育分野よりも市民生活といった分野で大きくクローズアップする位置付けとなっている。そうしたことも踏まえて検討し、教育大綱においては、学校教育、生涯学習・社会教育の2本柱の中に組み入れる形としている。</p> <p>先ほどの教育次長の説明のとおり、これから教育振興基本計画が策定され、個々の事業の具体が示される中で、「人権」「多文化共生」といった文言はきちんと発せられるものと思っている。もちろん、市長部局においても、「人権」「多文化共生」「男女共同参画」といった事項は、施策としてしっかりとうたってい</p>

渡邊教育委員	<p>なければならぬと思っている。</p> <p>基本方針で目指したい方向というのは何となく分かるのだが、全体にふんわりとした表現で、具体的な内容が見えてこないようにも感じている。市長のお話にあった人間力を育てていくというのであれば、5年先を見据え、今この段階で「多文化共生」もはっきりとした柱に据えておくべきではないかと思うがどうか。</p>
教育次長	<p>やはり、教育委員会の施策だけで完結するものではなく、全庁的に取り組んでいく必要がある。その精神を大切にしながら、教育委員会として教育分野で取り組むべき内容を、教育振興基本計画の中には具体的にしっかりと盛り込んでいきたいと考えている。</p>
教育長	<p>教育大綱の内容を市民の皆さんにシンプルに分かりやすく周知するという点も考慮し、基本方針については、学校教育に関する柱、生涯学習・社会教育に関する柱の2本立てとした。先ほど教育次長も申し上げたとおり、具体的施策については教育振興基本計画の中で示していく。</p>
市長	<p>基本目標については、現行の「大志を抱き未来を拓く人づくり」を引き継ぎたいと申し上げたが、これに関してご意見はあるか。</p>
吉川教育委員	<p>基本方針を3本柱から2本柱に整理したという点は理解できるし、基本方針としては、包括的な表現とならざるを得ない面もあるかと思ひ、全体の内容を見させてもらった。</p>
教育長	<p>基本目標を「大志を抱き未来を拓く人づくり」、その目標の3本柱を「夢や目標の実現を目指して努力する人」「ふるさとを愛し活力あるまちを創る人」「知・徳・体の調和のとれた成長をする人」として、現行の内容を引き継ぐということであるが、私もこの部分を変える必要はないと思っている。</p> <p>何らかの志を持てる子どもを育てるということは非常に大切なことで、そのための教育の推進をしていかなければならないと思う。志を抱ききっかけとなるのが、学校教育や社会教育等での感動体験であろう。現在も取り組んでいるユメセンや、本物の芸術や文化に出会う場というものは大切にしていけるべきである。</p> <p>そして、子どもたちにとって最も身近な感動体験となるのが担任や教科担任との交流であり、普段の授業がそうでなければならぬとも思っている。成功や失敗、挫折といった自らの感動体験を子どもたちに語り、全てをぶつけられる、その前提にある子どもとの信頼関係といったものを大切にしていかなければならないのではないだろうか。それには目に見えない努力が大切で、先生は厳しさと優しさを兼ね備えた子どもたちの憧れの存在であってほしいと思う。</p> <p>志を抱く教育というものを学校教育の中でどのように具現化していくか、校長のリーダーシップ、また学校が組織としてどう動いていくのかが問われてくると思う。そうした取り組みが不登校の減少も含め、いじめのない学校、明日もまた行きたくなる学校というものを作っていくのではないだろうか。</p> <p>吉川教育委員にご意見いただいた内容は重要と思っており、具体的な内容は教育振興基本計画の中で示していきたいと考えている。</p> <p>これまでの教育振興基本計画では予算措置された事業を中心に引き上げ、その事業を対象として評価いただいてきた。しかし、予算措置がなくても、このような教育を目指す、こういった教職員の力量をアップさせていく、例えば事業改善といったことも教育の非常に大きな目標であり計画であると思っている。</p>

市長	<p>計画の改訂に当たっては、予算の多少に関わらず、目標の実現に向けて取り組む実効性のある施策を示し、また可能なものは目標値も掲げるような内容構成としたいと思っている。教育大綱だけでは表現できることも限られるため、教育大綱と教育振興基本計画とのセットで、高梁市が目指す教育の方向をより明確にしていきたいと考えている。</p> <p>先ほどの吉川教育委員のご意見は、私の思いをほぼ代弁していただいたように思う。この学校でどのような教育を行うかという学校長の運営方針を、先生たちがしっかりと理解した上で実践していくことが大切だと思うが、仮に先生がやらされ感を抱いて授業を行うようなことがあれば、子どもたちはそのことを敏感に感じ取ってしまう。</p>
藤井教育委員	<p>子どもたちに志を抱いてもらう教育を進めるためには、先生たちが誇りを持って指導に当たることができる体制を作っていかなければならない。例えば、そのために人員の配置が必要なのであれば、経費が掛かったとしても対応していかなければならないと思っており、それは将来を見据えた投資といえる。</p> <p>大志を抱くということについては同感である。Society 5.0の時代が進んでいけば、仕事も教育も場所を問わない形態にますます変化してくる。地元で過ごした18歳までの自分を思い返すと世界を意識した生活ということはなかったが、東京をはじめ大都市で育つ人たちには自然と世界を意識できる環境がある。大志を抱くという観点からも、高梁市で育つ子どもたちが、世界を意識できる教育環境や情報を提供していく必要がある。教育振興基本計画には、そういったことも踏まえての具体的施策を取り入れてほしい。</p>
市長	<p>ユメセンを始めたときも、一つには子どもたちに世界を知ってほしいという思いがあった。ドローンによるプログラミング授業も始めているが、子どもだけでなく、先生の気付きも出てくることを期待している。現在はGIGAスクールサポーターを任用して各学校の支援に回ってもらっているが、今後を考えた場合、先生もICTに興味を持ち指導力を高めてもらわないといけない。そのための具体的な施策は、教育振興基本計画の中でしっかりと示してもらいたいと思う。教育大綱は、内容を1枚で簡潔に表現しようとしているので、包括的な表現となっている部分もあることはご理解をいただきたい。</p>
教育長	<p>生涯学習・社会教育の分野では、地域文化と文化財の保護・活用といったことは、今後かなり重要になると思っている。6月に吹屋のジャパンレッドが日本遺産に認定され、観光という側面で捉えられがちだが、決してそれだけではない。旧吹屋小学校の保存修理工事も来年度中には完成するが、完成後の活用については多くの方が興味をお持ちである。せつかくの身近にある貴重な文化財であるので、大人だけでなく、子どもも参加できるような有効な活用方法を、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。</p>
教育長	<p>また、子どもたちには、山田方谷の精神ではないが、友人や先生に対して感謝の気持ちを持って学んでいってほしいとも思っている。</p>
渡邊教育委員	<p>子どもたちには感謝の気持ちを育んでいってほしいが、それには感謝に値する存在となるべく教職員が努力していかなければならない。</p> <p>自分が先生や友人から認められていると感じ取れる教育環境の中であれば、周りが働きかけなくても子どもは自ら学んでいき、それによっておのずと感動体験</p>

市長	<p>が増え、周囲に感謝する気持ちも自然と芽生えてくるように感じている。それが逆の環境であると、子どもは全く伸びない。しかし、就学前から小学校くらいの人間の素地がまだ出来上がっていない時期においては、周囲の大人の働きかけが子どもに大きく影響すると思うので、何らかの配慮は必要である。</p>
教育長	<p>開会あいさつでも触れた35人学級に関連し、皆さんにご質問したい。高梁市では独自施策として34人以下学級を実施しているが、例えば20人程度の学級編成とする方がよいのか、現在も行っている教科別の少人数指導のような形がよいのか。これからの教育環境として望ましい形についてのご意見を伺いたい。</p>
川上教育委員	<p>教育界としては、1クラスの人数が少ない方が生徒指導面でも授業の在り方でも、全ての教育活動できめ細かい対応ができるという考えはある。しかし、国の財政事情や、少人数学級にした場合、特に都市部の学校での教室や教員数の不足が生じるといった課題もあり、なかなか実現に至らなかった。そこで少人数指導やティーム・ティーチングといった制度を取り入れながら対応してきたわけであるが、欧米では20人や25人を基準人数としているところが多い。</p>
市長	<p>文部科学省の海外派遣事業で欧米や中国等の教育現場を視察させてもらったことがあるが、学習に最適な人数は25人という研究成果があるとの話もあったし、20人を基準している国もあった。予算面の課題はあると思うが、最適な教育環境としては20人から25人が望ましいのではないかと思う。</p>
教育長	<p>高梁市では大半が25人以下学級であるが、25人以上の学級編成となっている学校も一部あるので、財政面も含め、市がどう対応していくかであると思う。</p>
市長	<p>きめ細かい教育環境を整える上では、将来的には、例えば30人といった、国や県の基準よりも少ない高梁市独自の学級編成基準を打ち出すことができればとの思いはある。</p>
教育長	<p>私が加入している教育再生首長会議での事例紹介で、30人学級を実施している自治体があり、1クラスが18人から19人で、成果として最も顕著だったのが不登校人数の減少であったとの報告があった。少人数編成としたことだけが要因ではないだろうが、やはり子どもに目配りしやすい環境になったということはあると思う。</p>
吉川教育委員	<p>例えば理想とする25人を基準とした場合、1人でもオーバーすれば2クラスに分けなければならない。そうなると1クラスが13人となり、人数が減ったことで子ども同士の影響の度合いも減ってしまう。少人数学級には、このような弱みもあるが、どちらがよいのかを考えた場合、やはり少人数できめ細かい教育環境を整える方が望ましいのではないかとは思う。</p>
市長 教育長	<p>将来を見据えた場合には、30人学級のような高梁市独自の思い切った施策も必要であると思う。また、小学校高学年における教科担任制についても、国で検討されているものの、ほとんど進展がない。一部教科でもよいので教科担任制や、できれば担任複数制といった教員を増やす取り組みを進めてほしい。</p> <p>人員の確保ができるのかという課題もあるのではないか。</p> <p>学校における業務改善をはじめ、岡山大学の県北地域教育プログラムとの連携、出身者やゆかりの教員に高梁市へ戻ってきてもらうなど、高梁市の教育の発展のためには、あらゆる手段によって人事面での最大の努力はしていかなければならないと思っている。</p>

#### 4 その他

渡邊教育委員	高梁市においても、例えば制服選択制といったLGBTへの取り組みも今後は必要になってくるのではないかと。
市長	世界的な流れの中では、当然対応していく必要があると思う。
川上教育委員	総社市等では、人権教育の一環として意識的に取り上げているので、今後は必要ではないかと。
教育長	高梁市の人権教育・啓発推進指針の中ではもちろん取り上げている内容であるが、教育振興基本計画では、その内容に特出してというよりはさまざまな人権問題と合わせて取り上げることになるのではないかと考える。
市長	教育分野だけの問題ではないので、市長部局において考えていく必要のある内容であるとも考える。

#### 5 閉会

あいさつ（市長）

皆さんのご意見も踏まえながら、令和3年度からの教育大綱を定めさせていただくので、ご理解とご協力をお願いします。

就学前から高等教育まで、高梁のまちで学んだことを誇りに思えるような教育環境を整えていかなければならない。相手のことを思いやることのできる子どもを育てていくためには、現場の先生たちとも一緒になって切磋琢磨していく必要があると思う。

次期総合計画に基づき、人口減少が進む中でも、高梁市に移住・定住者が増えるようなまちづくりの取り組みを進めていくので、今後とも引き続きご支援・ご協力をお願いします